

トンネル内で事故や火災が発生したら

～まず第一にご自身の安全を確保したうえで、
可能な場合は下記のとおり通報等のご協力をお願い致します～

【1】 押しボタン式通報装置か非常電話で通報して下さい。



◆押しボタン式通報装置（50m間隔で設置）

ボタンをランプがつくまで押して下さい。自動的に火災が通報されます。

◆トンネル内非常電話（200m間隔で設置）

受話器をとると道路管制センターにつながります。火災や事故状況を伝えて下さい。

【2】 消火器で初期消火に努めて下さい。

◆消火器（50m間隔に2本ずつ設置）

消火器は、油類の初期消火に一番有効です。

消火器 使用手順

①ボックスの扉を開け、消火器を取り出す

②消火器のホースをはずす。

③レバーの安全ピンを引き抜く。

④レバーを握る。粉末消火剤が約 20～30 秒間噴出。

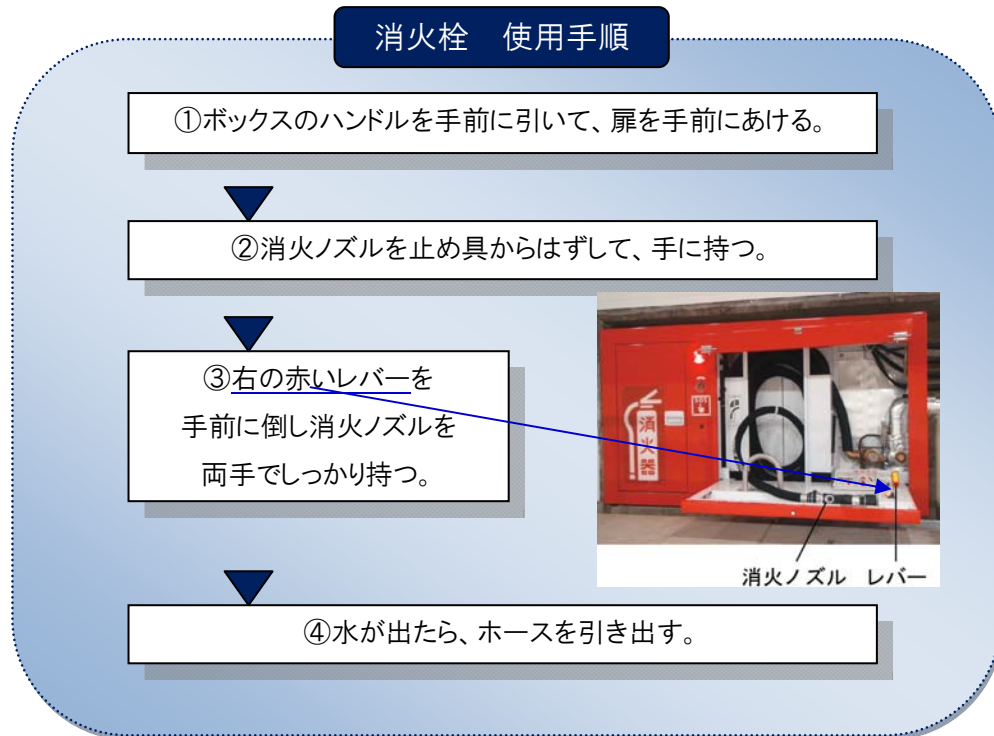
⑤ホースをまっすぐ持ち、火元へ直接消火剤がかかるように吹き付ける。

【3】 消火栓を利用して消火に努めて下さい。

◆消火栓（一部のトンネルに50m間隔で設置）

※消火栓は設置されていないトンネルもあります。

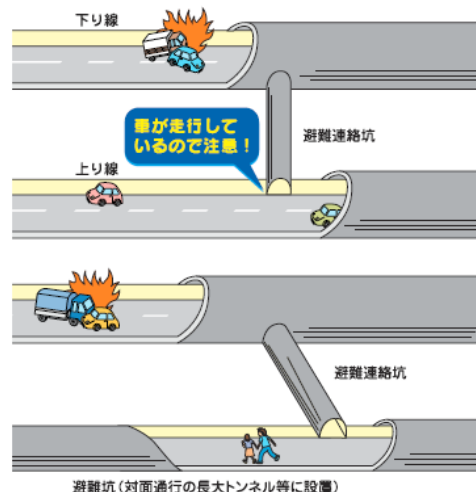
消火栓が設置されている場合は、消火栓を利用して消火をお願い致します。



【4】 火災が拡大して手に負えなくなったら、すみやかに避難して下さい。

【注意！】 車を離れるときは車を左に寄せ、サイドブレーキをかけ、エンジンを止める。キーはつけたまま、ドアのロックはしないでください。

トンネル内のスピーカー、ラジオ再放送を通じて情報や指示が流されるので、そのとおりに落ち着いて行動して下さい。また、煙は温度が下がると降下します。煙にまかれないう煙の流れを見て非常口や避難連絡坑の場所を確認してください。



トンネル走行時のポイント

●気がつきにくいトンネルの勾配

勾配を感じさせる対象物が少ないため知らないうちにスピードが出過ぎたり、ダウンしたりしています。勘に頼らずスピードメーターで確認しながら走りましょう。



●感覚のずれに注意

トンネル内では走っている車か、止まっている車か、とっさに判断しにくくなる時もあります。その感覚のずれによる判断の遅れが事故に結びつくことがあります。

●トンネル出口の横風に注意

トンネル出口は横風にあおられハンドルをとられることがあります。出口に近づいたらスピードを落とすなど十分注意して走りましょう。

●ブラックホール現象とは

外の明るさとの対照でトンネルに入っていき前の車が黒い陰に吸収されて見えにくくなる現象。そのためドライバーは不安になってスピードを落とし、スピードの落ちた車に後続車が追突するケースがあります。



《トンネル入口》

トンネル入口情報板やトンネル入口用信号機に注意して下さい。
進入禁止の表示や赤信号の時はハザードランプなどで後続車に合図し、
トンネルの外側で停車してください。

■ トンネル入口情報板

「進入禁止火災」など、安全走行に欠かせないトンネル内の情報を表示し、
警告しますのでその表示に従ってください。

■ トンネル入口用信号機

長大トンネルの入口にあります。赤信号の場合は進入禁止です。

※トンネルが進入禁止となった場合は緊急車両の通行の妨げにならないよう、
道路の左側に車を寄せ、トンネルの手前で停車してください。

《トンネル内》

トンネル内情報板やラジオ再放送に注意し、火災を知った場合はその指示に従い、
ハザードランプなどで後続車に合図のうえ、停車してください。
トンネル内のスピーカー・ラジオ再放送の指示に従って避難してください。

■ トンネル内情報板

長大トンネル内にあり、
「火災とまれ」など前方の情報を表示
警告しますので、その表示に従ってください。



■ トンネル内ラジオ再放送

トンネル入口に右の写真の表示があるトンネルでは
AMラジオのスイッチを入れて下さい。
火災発生などの緊急時にはラジオ放送を中断して緊急放送を行います。